

みんなで支えあい 共につくる安心なまち

地域福祉推進のための アンケート調査結果

令和2年12月

甲州市社会福祉協議会



地域福祉推進のためのアンケート調査概要

1. 調査目的

令和2年度に策定した第3次地域福祉活動計画の中で、地域の情報が不足・把握できていないという課題があがりました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、既存の捉え方、考え方では地域福祉の推進が立ちいかなくなってきている現状も踏まえ、地域の方々にアンケート調査を行い、住民の意識やニーズをとらえ、今後の計画推進に当たることを目的として実施します。

2. 調査対象

- ・社協関係者（理事、評議員、監事 等）
- ・支部関係者（支部役員、地区推進員、福祉協力員 ボランティア推進員 等）
- ・関係団体（民生児童委員、老人クラブ会員 等）
- ・社協事業一般関係者（趣味の家受講生、サロン関係者 等）
- ・地域関係者（区長 等）

3. 調査方法：【配布】郵送及び会議等にて個別に配布／【回収】返信用封筒にて回収

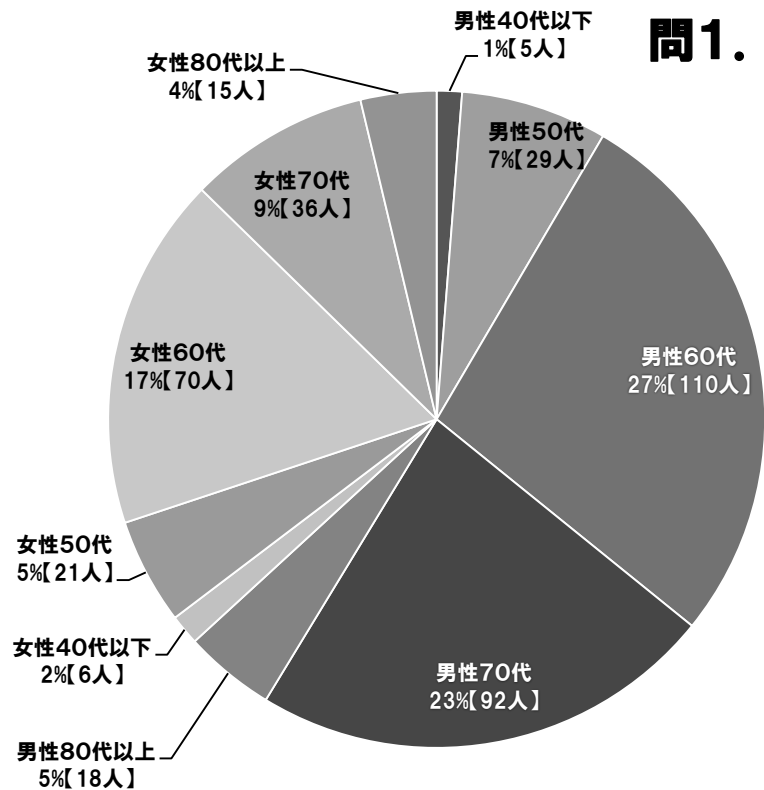
4. 調査実施期間：令和2年8月1日 ～ 令和2年9月15日

5. 調査内容

- (1) 基本項目：ご本人の基礎情報を聞き、他の項目と合わせて現状を確認します
- (2) つたわる：社協の取り組みに対する認知度及び地域情報の取得手段（媒体）について調査します
- (3) つどう：地域の集いの場の現状確認及び今後の希望等を調査します
- (4) つながる：地域でのつながり・ニーズの把握。また、相談の繋り先について調査します
- (5) になう：地域の担い手の有無や意識を調査します
- (6) 新型コロナウイルス：現在の新型コロナウイルス感染症拡大の社会情勢を踏まえ、困りごとや住民意識、または現状のニーズを把握することにより、第2波に備えるとともに、今後の事業展開へと繋げていきます

6. 回収率：74%【402/540（回答数/配布数）】

問1. 性別年代を教えてください

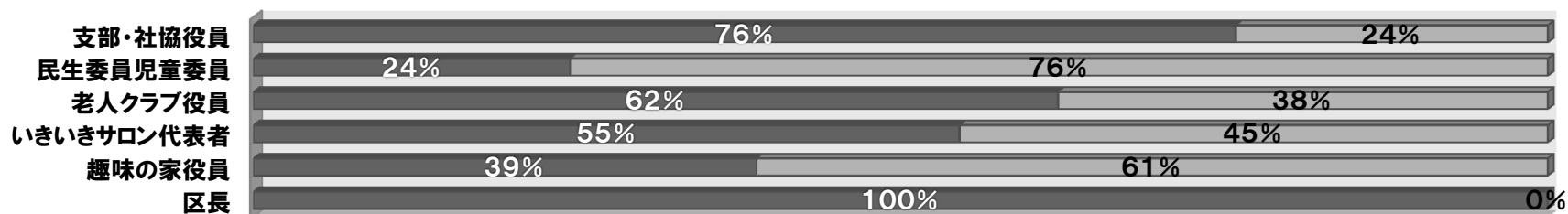


考察

全体男女比としては6:4であり、男女60,70代で全体の3/4を占めている。年齢構成としては退職後の人たちが中心となっており、経験もあり地域のことを知っている年代であるということは地域福祉の推進という面からも適役であると考えられる。一方で40,50代の若い世代の参画も徐々に増やしていけるよう検討していく

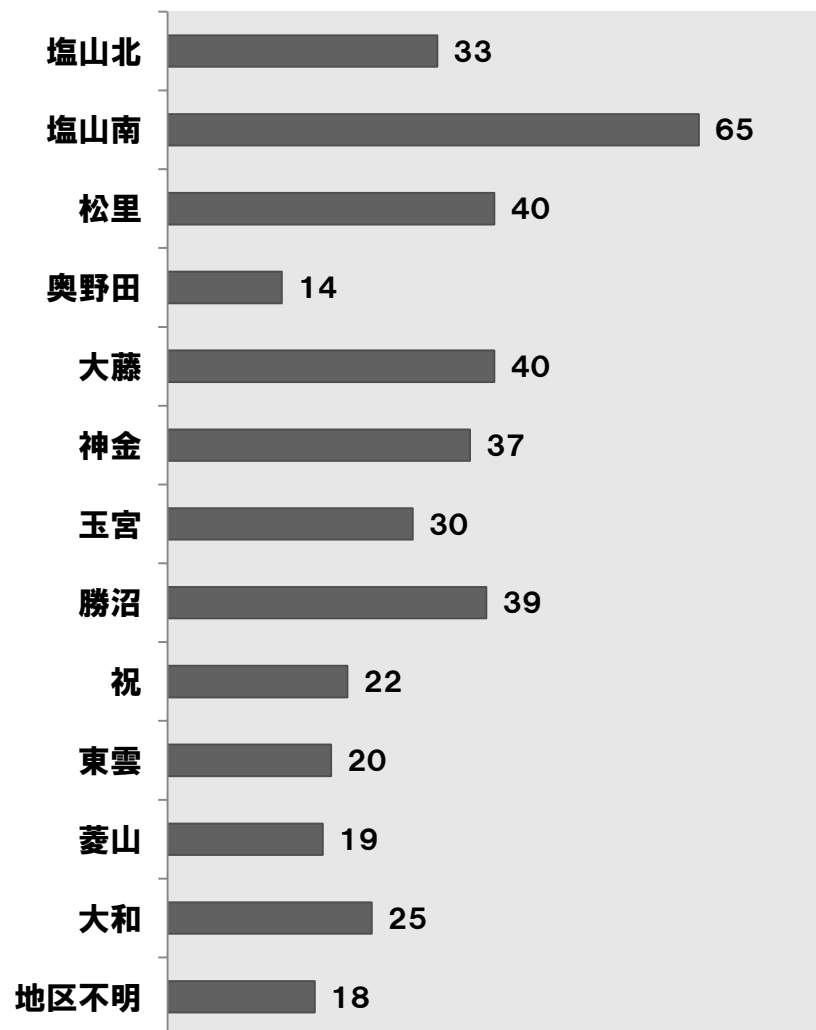
参考資料:①

■ 男性 ■ 女性

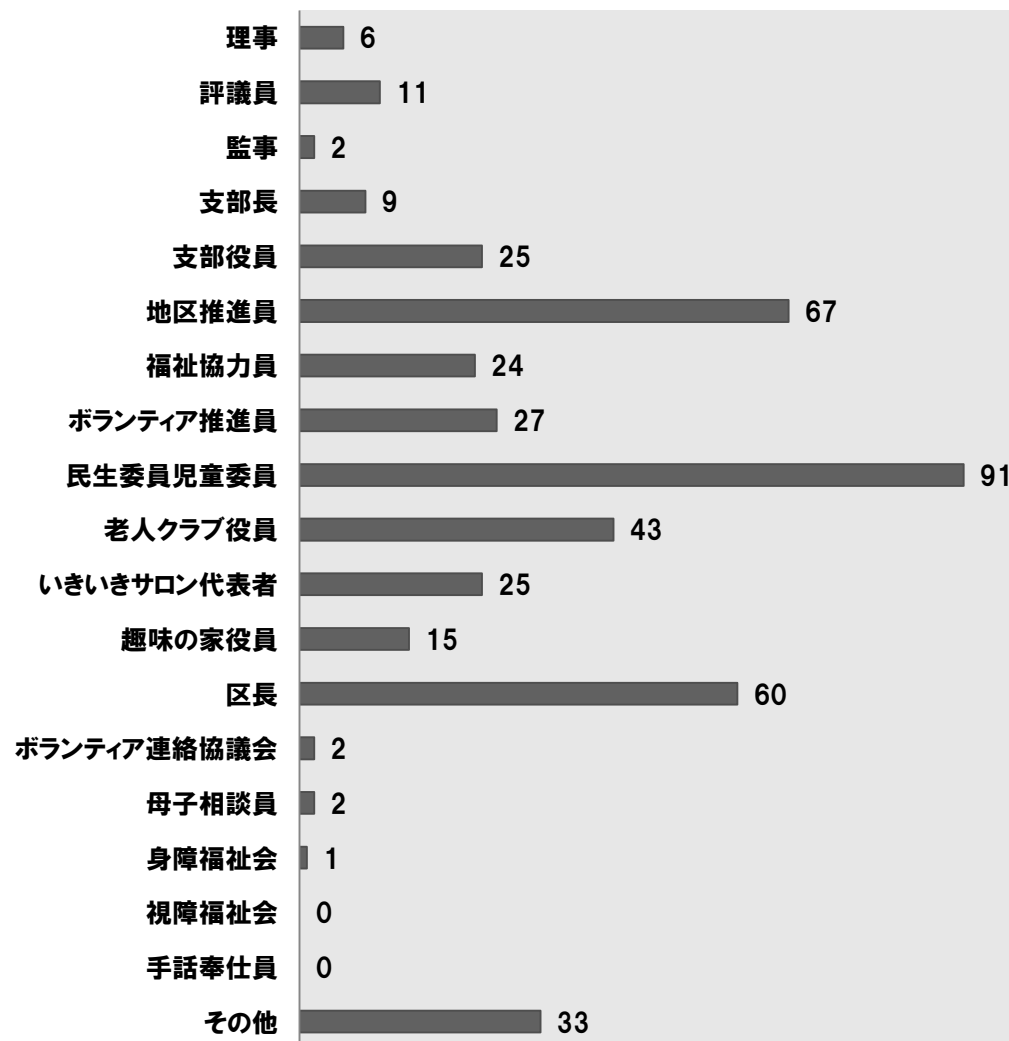


	区長	趣味の家役員	いきいきサロン代表者	老人クラブ役員	民生委員児童委員	支部・社協役員
男性	47	7	6	23	23	148
女性	0	11	5	14	71	47

問2. お住いの地区をご記入ください



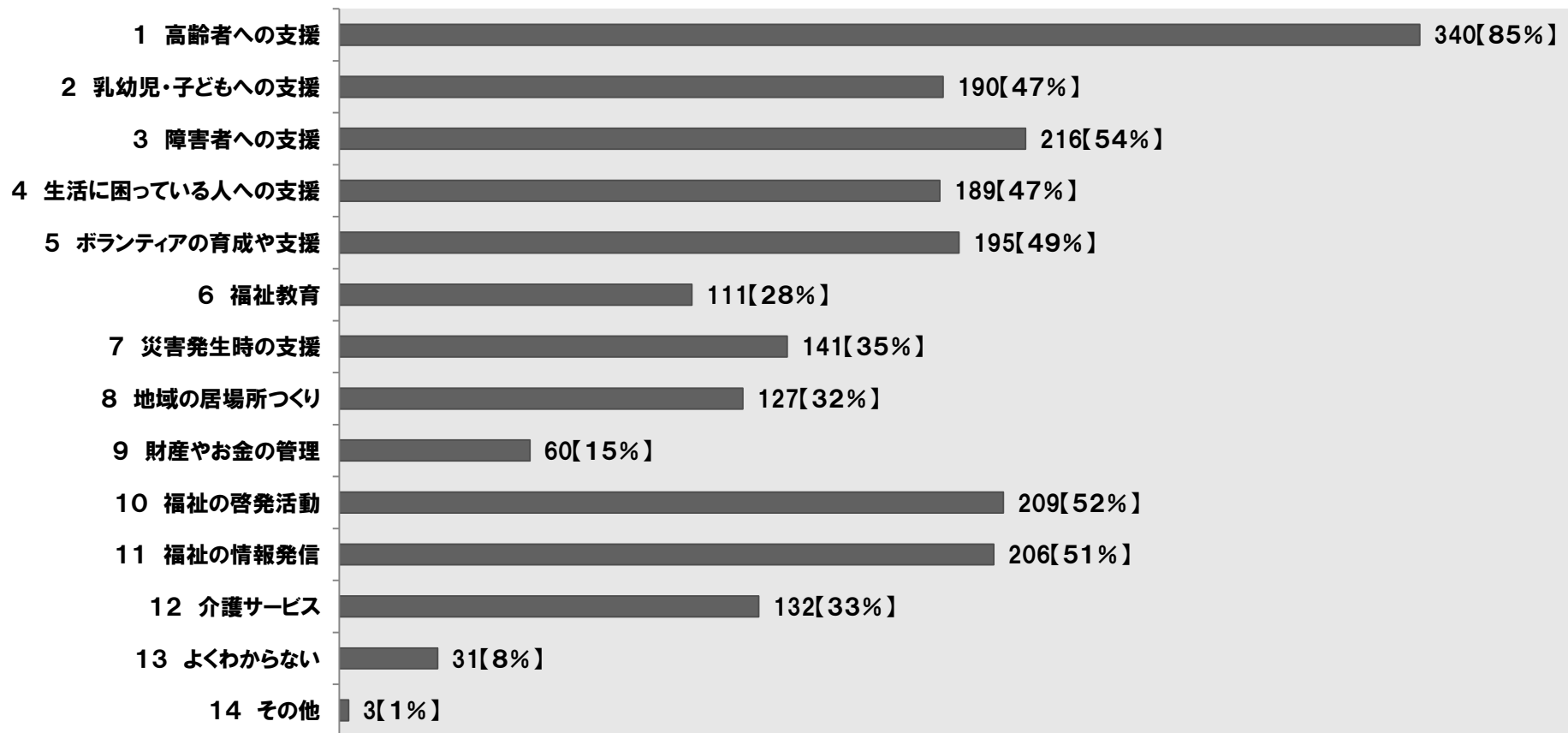
問3. 甲州市社会福祉協議会との関係を教えてください (複数回答可)



●その他意見

・組長/・総組長/・前支部長/・農地利用最適化推進委員

問4. 甲州市社会福祉協議会ではどのような取り組みをしているか知っていますか(複数回答可)



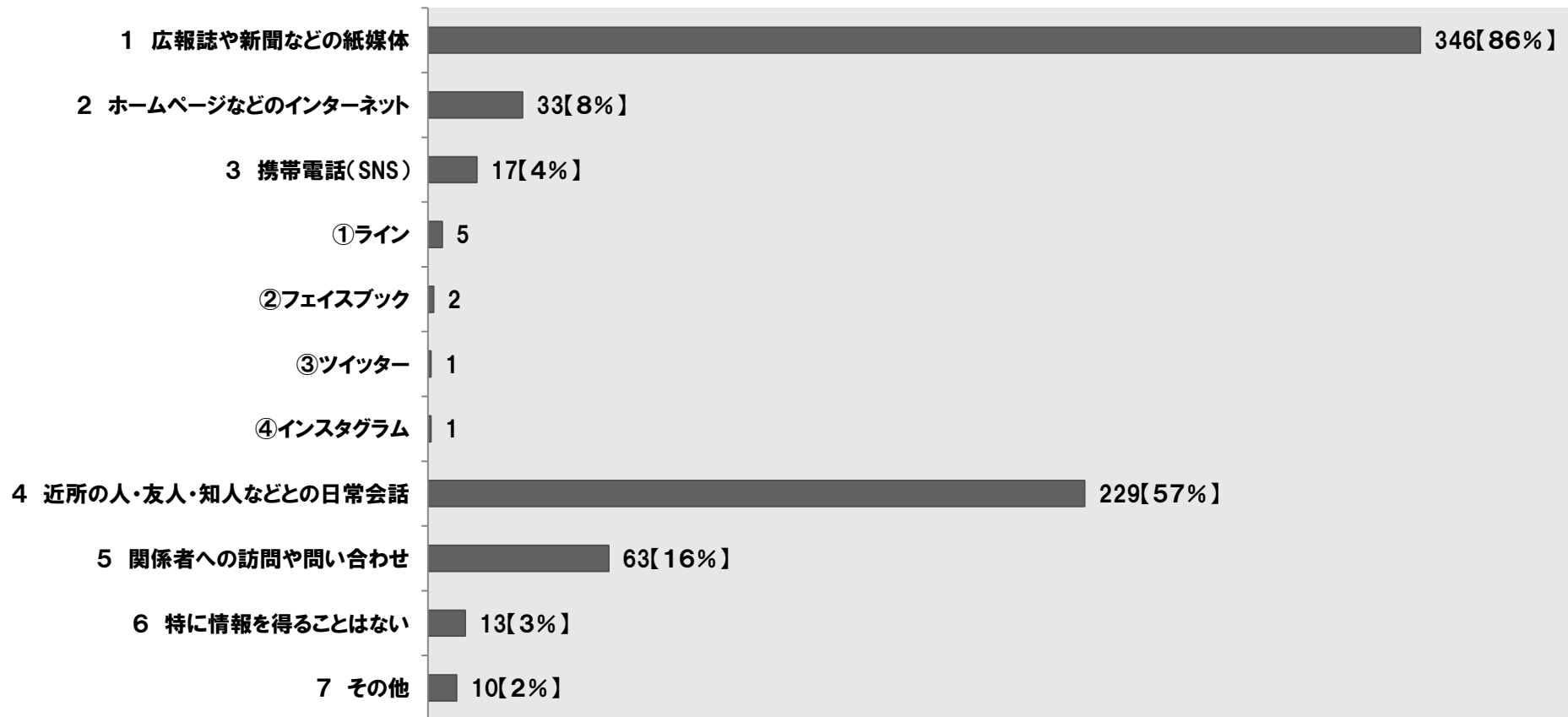
●その他意見

- ・一人暮らし老人親睦会、グラウンドゴルフ/・社協に関わるようになり、いただいた資料を見て、その活動範囲の広さに驚いている
- /・すべてにおいての協力支援

考察

最も高い85%の方が認知されている事業は「高齢者への支援」であった。実際の取組みも高齢者向け事業が多いことも関連し高い回答率となっている。他の回答はほぼ50%以下と周知・理解不足と言え、特に回答7,8は全市民を対象としている割に低い回答率となっている。社協としてもっとアピールをしていく必要があり、住民へ向けた周知方法を検討していく。

問5. 日ごろから地域の情報を何で得ることが多いですか(複数回答可)



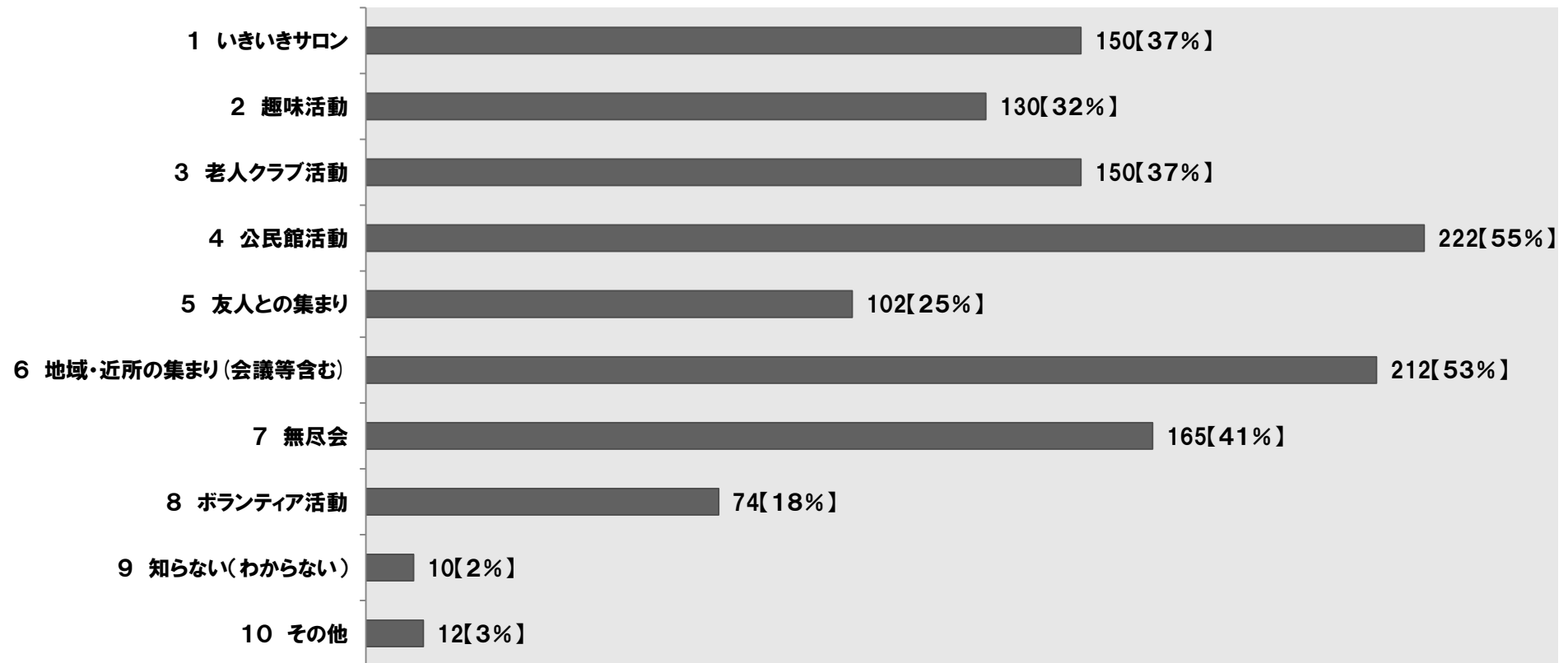
●その他意見

・ライオンズ在籍41年(ライオン誌)/・回覧板/・会議(定例会)

考察

住民の情報源は回答1、4にほぼ限定されており、それらの回答率が高いのは地域性が出ている。反対にITなどの活用が低く、自ら積極的に情報を得ようとしていないことも予想される。行政も各種情報をインターネットなどで出し始めてきており、今後は高齢者に機器の利便性や使い方を教えるなどの支援を検討していくとともに、周知内容や周知したい相手によって様々な媒体の使い分けが必要になってくる。

問6. 今、地域(地区)ではどのような集まりの場がありますか(複数回答可)



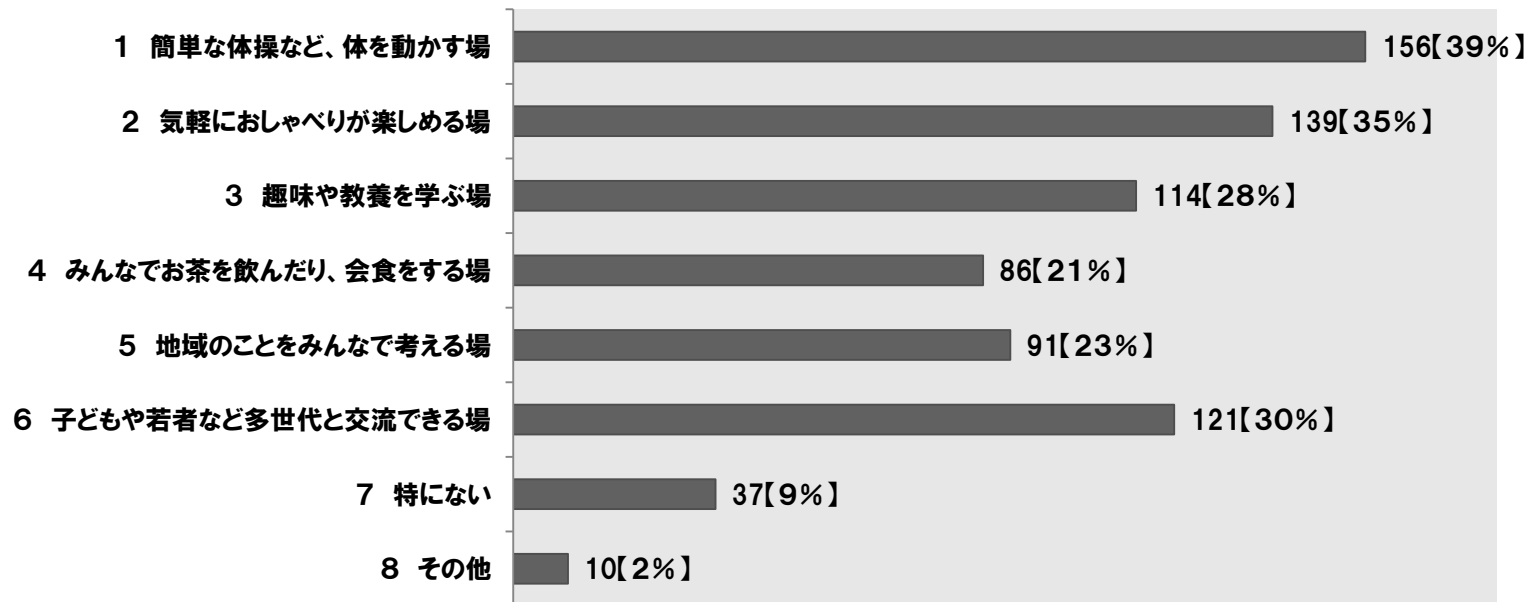
●その他意見

・旅行/・スポーツ大会/・グラウンドゴルフ/・花づくり/・健康体操/・清掃活動/・新年会/・祭事/・高齢者慰安会

考察

回答4,6は回答率が50%を超え、回答7も含め地域には自主的に集まる機会が多いこと、また、その他の回答も25~40%の回答率であり、地域には既に多様な集いの場があることが伺える。社協として集いの場を新規に立ち上げるだけでなく、公民館など既存の集いの場との連携・調整も1つの手段として検討していく。サロンと老人クラブに関しては全体の1/3程度の回答率であり、市内の設置数と比べても妥当である。

問7. 地域(地区)でどのような集まる場があったら良いと思いますか(複数回答可)



考察

回答2,4からはサロンのような場が求められていることがわかる。また、回答5に関して全体の約1/4が望んでおり、回答6も含めた結果から地域の取り組みへ繋げていくことが重要である。反対に全ての回答が40%以下とニーズが多様化していることが伺える。今後は「なぜ必要(不要)か?」の理由の聞き取りまで掘り下げる必要がある。

問7. 設問3

【文化】習字 1 / 詩吟 1 / 手芸 4 / 絵画 2 / 絵手紙 1 / 盆栽 1 / 俳句・川柳・短歌 3

【音楽】カラオケ 4 / 楽器 4 / コーラス 4

【IT】スマホ 7 / パソコン 2

【対局】囲碁 3 / 将棋 4 / マージャン 6

【運動】ヨガ 1 / 体操・太極拳 2

【その他】花 1 / 料理 2 / ゲーム 1

歴史・文化・昨年実施した町ゼミ(商工会)は有益でした / いきいき健幸教室に入っているがコロナで中止している

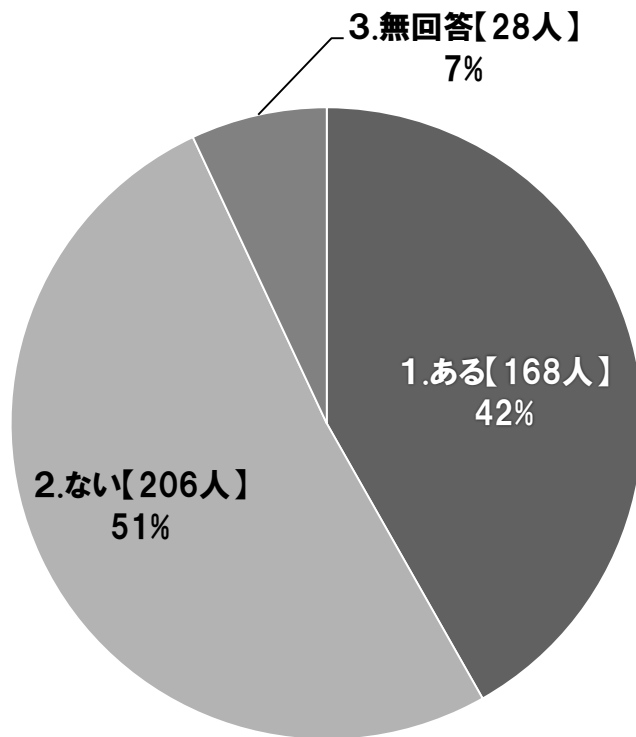
同じ趣味を持った者が集うことができる場があれば / 共通の趣味講座 / 農業技術各教室 / ゴミ出し・草取り / 資格の講座 / ものづくり

登山や植物、野菜などを育てる講習 / 災害時避難方法学習・AED学習 / 予防医学

問7. その他

・既に公民館があるので必要ない(既にある) / ・高齢のため参加不能 / ・公民館活動、社協の地域活動など探せば機会は多くある。身近なものからもっと積極的に参加するようにしたい / ・ゲートボール場 / ・住民も多種多様だからそれを尊重するのが良い / ・コロナ禍では困難と思われる

問8. 近所(地域)の困りごとに対してあなたが何か手助けをしている(していた)ことはありますか



考察

地域の中では独自に多種多様な助け合いがあることがわかるが、約半数の方が「ない」という回答であった。地域での助け合いの必要性について意識付けをしていけるよう学習の機会等を設け、ともに学んでいく場が重要となってくる。

問8. あると回答した方の具体例

●地域の見守り

高齢者への見守り・声掛け 24 / 児童の見守り・声掛け 5

●防犯・防災・安全

防災訓練 / 災害避難時の声掛け / 空き家の管理 / 留守宅の見回り / 防犯予防ポスターを貼る
防犯灯設置 / 農道の整備・河川の清掃、生活安定を計る / 道路整備 / 水路、道の整備
道路曲がり角の改善 / カーブミラーの維持

●地域の困りごと

ゴミ出し 12 / 清掃・草取り 11 / 雪かき 4 / 高齢者の外出支援(買い物、病院) 5
独居老人宅の玄関チャイムの交換・独居高齢者料理手伝いや一緒に食事をする
独居高齢者におかずや食事のおすそ分け
移動販売車、毎週(木)午後2時~3時30分高齢者7人~8人の買い物の手伝い、又は物品を届ける
ゴミ置き場修理整理 / ゴミ集積所の掃除 / 近所のゴミ出し物の状況確認 / ゴミ収集場所の確保
神社の境内の修復 / 神社境内清掃

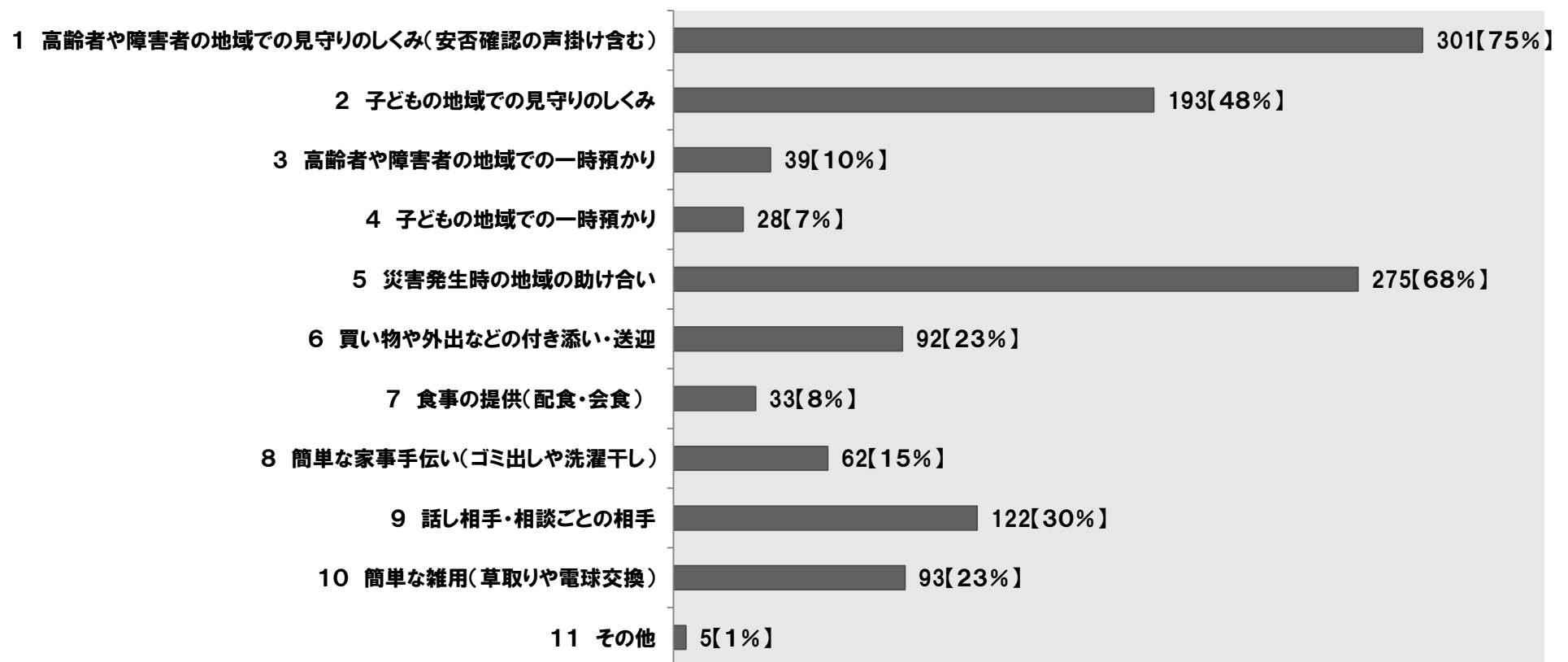
●地域の相談事

話し相手、相談相手 10 / 近所トラブル仲介・市への申請手続き・相談事にはできる限り対応している

●その他

花の植替え / 施設管理 / 金銭の援助 / 民生委員活動 / 育児ボラ / 保健衛生 / 野良猫駆除
他の組員さんの畑の管理 / 果樹の消毒
老人クラブ活動に積極的に参加 / 老ク行事参加声かけ
役職柄地域の状況には注意を払っている

問9. 安心して地域で暮らしていくためにはどのような支援や助けが必要だと思いますか(複数回答可)



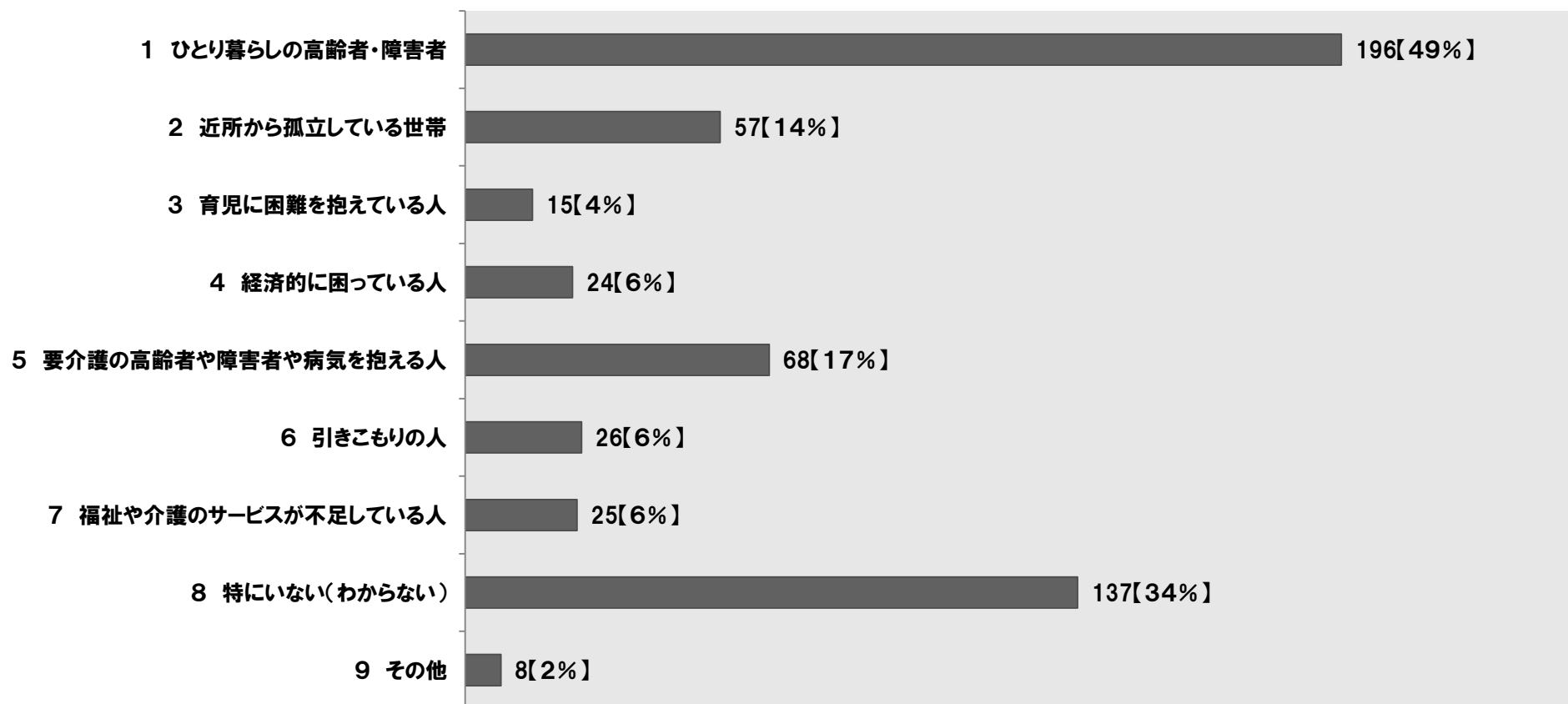
●その他意見

・高齢化社会において、元気の高齢者が地域にgive back to コミュニティーの文化をつくる活動/
・地域での認知症者の早期把握と支援
・自力で対応するのが基本、甘えは最低限で良い/
・デマンドバスを使いやすくすることが大切/
・上記すべてが必要と思うが、個人の負担を考えると難しい

考察

回答1,5は関連しており住民の意識も高い。今後は「個々」での活動を「地域で見守るしくみ」へと繋げていく必要がある(広域的なものも含め)。回答3,4,7の回答率が低いのは、より身近なものとして取り組めるものが望まれている傾向にあると言える。回答6,8,9,10に関しては潜在的な必要性を把握し、協議体との連携も視野に社協としても側面的に支援をしていくことも検討する。

問10. 近所や地域の中で気になっている方(何らかの支援が必要だと感じる方)がいますか(複数回答可)



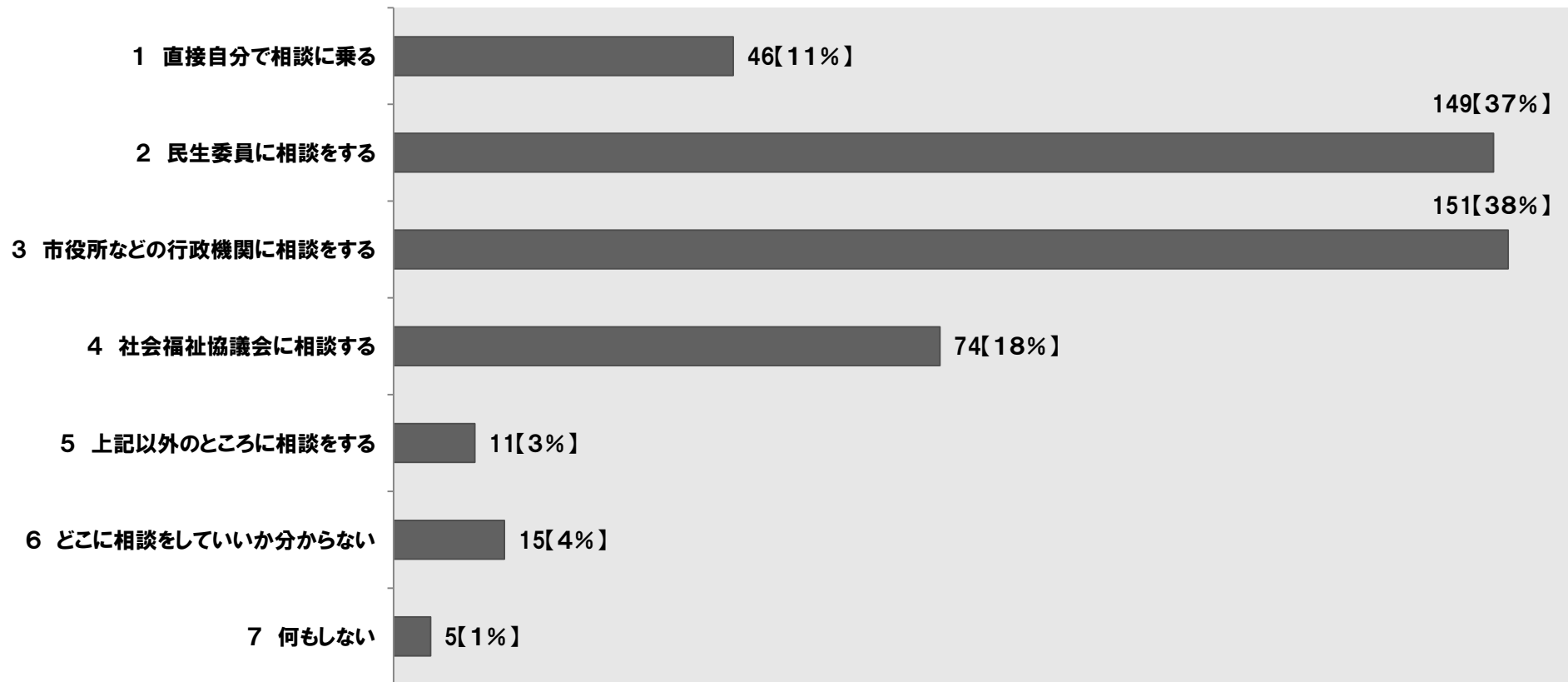
●その他意見

・近頃、認知症の方が増加しているので対処/
・耕作放棄地所有者/
・ことと次第のわからないものが平気である→孤立
/
・近隣住民とのトラブルや周りの方へ合わせない方/
・母子関係が思わしくない方/
・夫婦暮らしの高齢者

考察

回答1の回答率が約50%と最も高く、回答5も含め高齢化率の高い本市でもあり住民に見えやすい(顕在化)ため、高い回答率になっていると考えられる。また、実際に地域には何らかの課題を抱えた高齢者(障害者)が多いことが予想される。顕在化しにくい課題も含めた延人数としては411人おり、地域には多様な課題を抱えている人がいることがわかる。

問11. その方のことで相談するとしたらどこへつなぎますか(複数回答可)



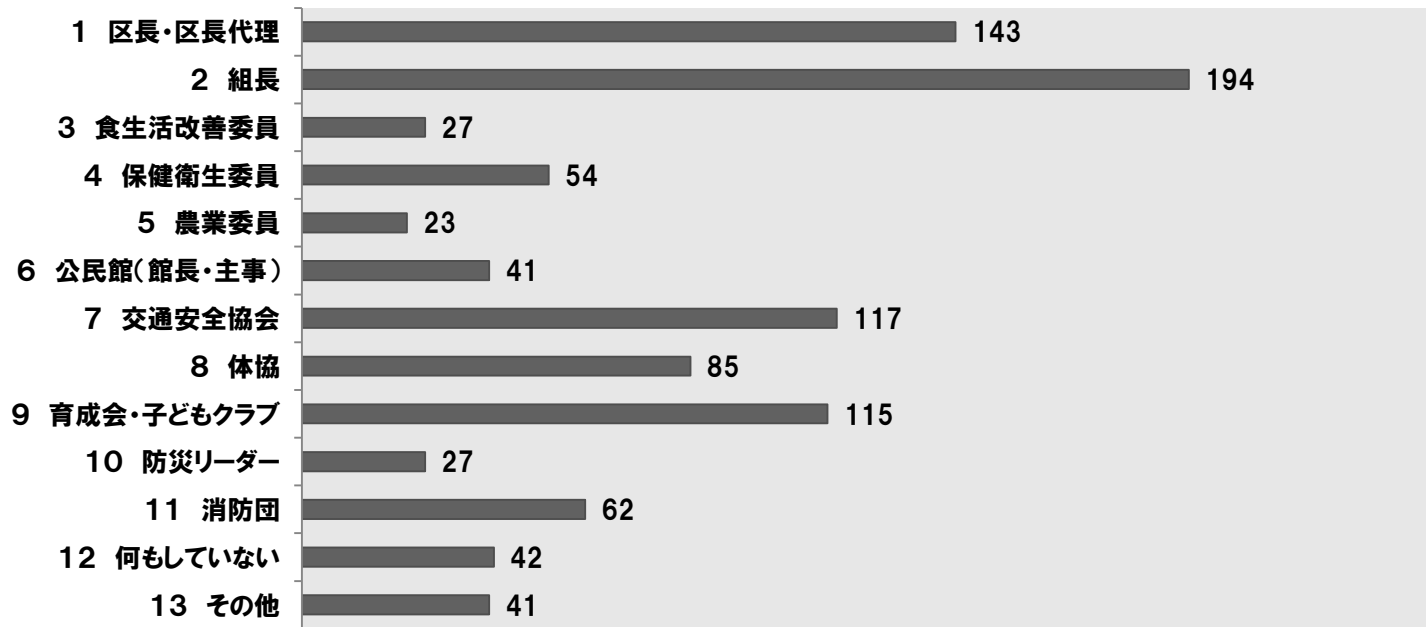
●上記以外のところ

・社会福祉施設/・本人の近所の人 /・組に相談(神金)/・農業委員会/・ケアマネ/・親族/・友人/・別居している子供(県外)に話す

考察

回答2,3の回答率が高いのは、施策の中のもの市へ繋ぐという考えが定着しているため、身近な相談者としての民生委員というのが地域に浸透しているためと予想される。社協としては、現在、支部体制の見直しや多機関協働相談支援センター、権利擁護支援センターなど行政とも連携した形での相談体制作りを進めているところであり、複合的な課題などの身近な相談先として「頼られる社協」を目指していく。

問12. 今、地域で社協関係以外でしている役はありますか(過去していた役も含めて回答してください)



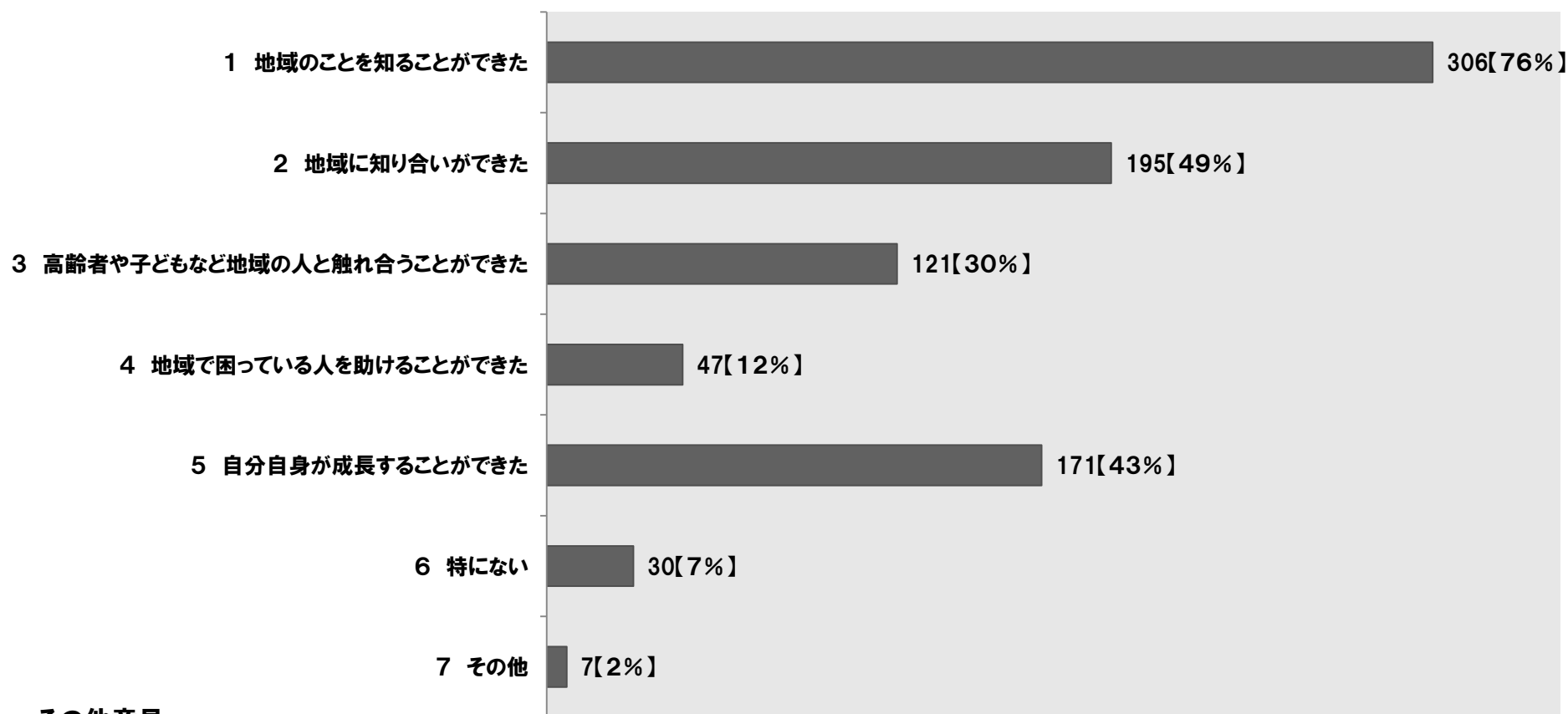
考 察

回答12を除いた延人数は929人であり、1人がおおよそ2.5個の役を担ってきていることがわかる。ここから、同じ人に役が回ってきている現状及びそれが役の負担感にも繋がっていることが予想される。また、その他意見から、地域には多種多様な役があることがわかる。

●その他意見

- ・民生委員児童委員 4
- ・公民館関係 4(運営委員・推進委員)
- ・学校関係(学校PTA・小学校のスクールガード・大和小中学校運営委員会)
- ・社協関係(元旧塩山社協会長・運営委員)
- ・寺・神社関係(神社総代・役員・神社氏子総代、檀家総代)
- ・市役所関係(男女共同参画推進員・まちづくり推進委員・人権擁護委員・日赤奉仕員・選挙立会人)
- ・地域関係(大藤財産区管理委員・地区体育委員・交通指導員・水道管理委員・婦人会、愛育会・老人クラブ役員・文化協会)
- ・組合関係(果実組合長・簡易水道の組合長)
- ・生産部部長
- ・地域内の各種団体等の会長、副会長等の役をしている
- ・地域の若者団体の長
- ・各種活動団体のリーダー

問13. 役をやってよかったと思うことがありますか(複数回答可)



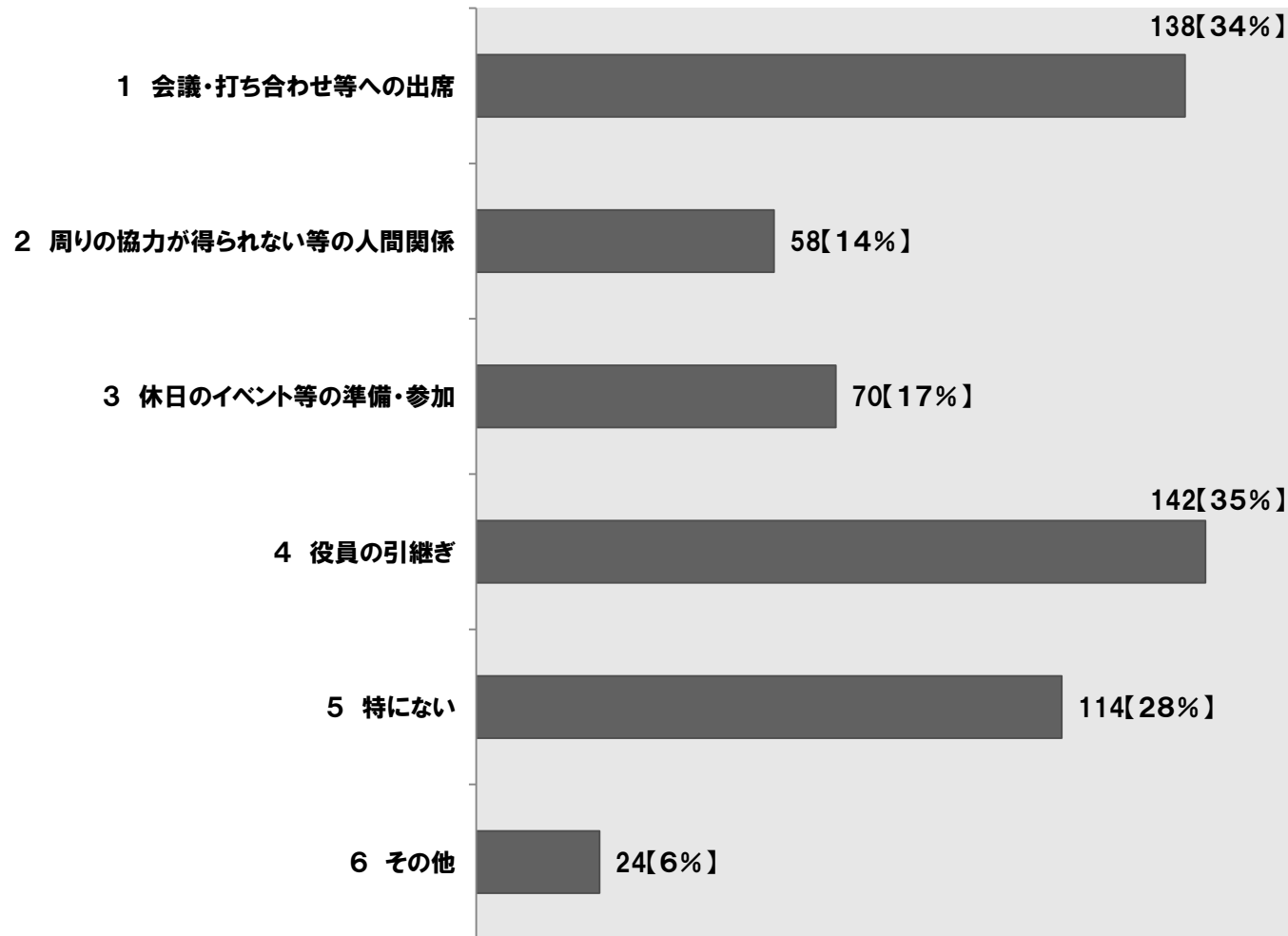
その他意見

・まだわからない /・未経験のため、答えられません/・市や社協の事業の一端を知ることが出来た/・人の役に立てた
/・社協でどんな事をやっているのか、やろうとしているのが少しわかってきた。こんなに沢山の役割をしているとは知りませんでした

考察

⑬回答1の回答率が80%近くと高い回答率であり、役を降りたあとも地域と関わっていくきっかけになるようにアプローチをしていくことが、福祉に対する理解者の裾野を広げることにつながる。また、事前に役ごとの必要性や効果などその役の意味(理由)を伝えることで、役へのマイナスイメージを改善していく必要がある。

問14. 役をやって負担に思うことがありますか



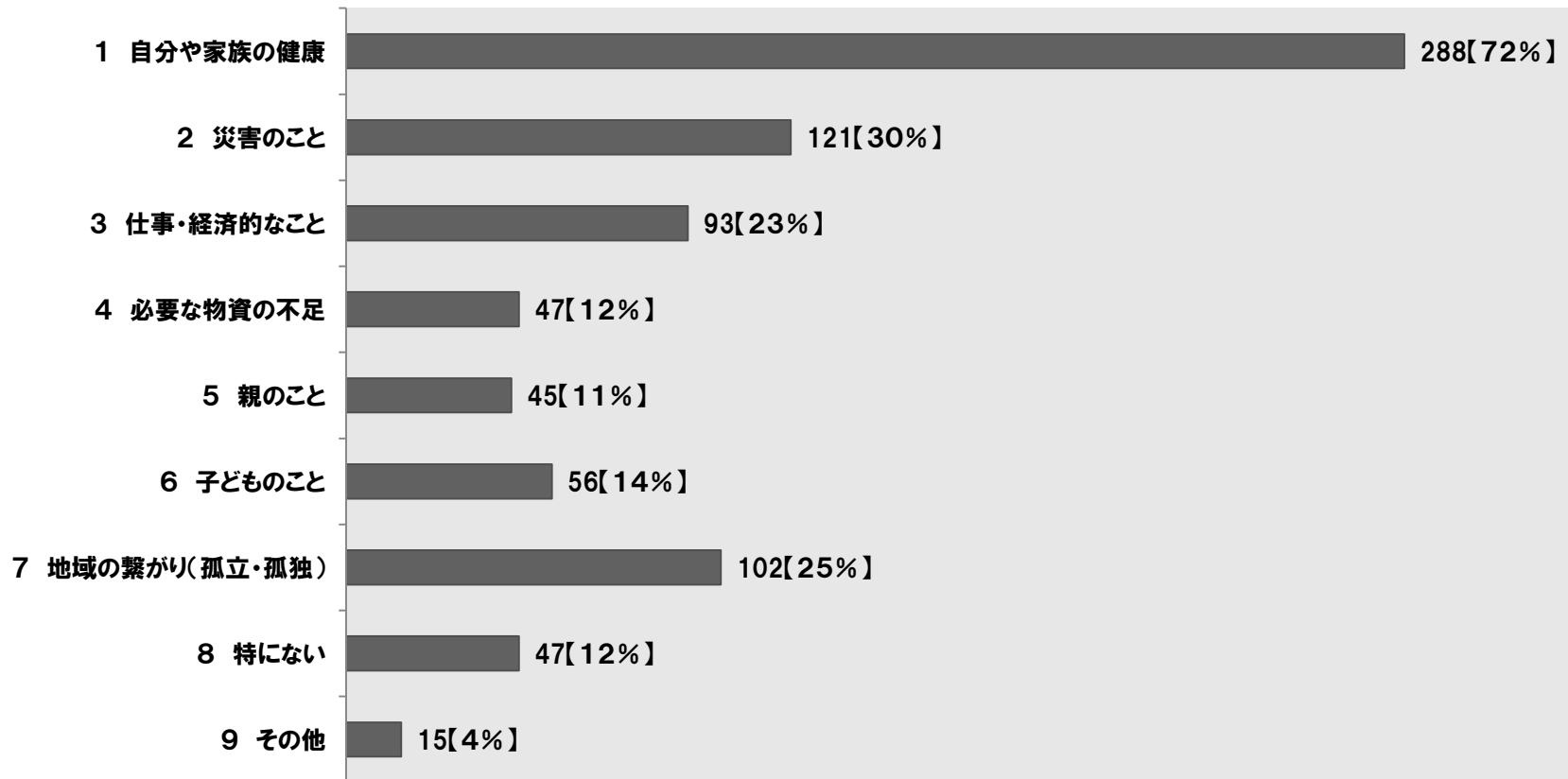
●その他意見

- ・役職が重なる時、職場の仕事と重なる時、後任者を見つける時
- ・役員の後任を探すのが大変。関心が薄い
- ・次の役員が決まらない事、後任の選任
- ・無駄な組織があまりにも多い⇒結果、役員のなり手がいない。(重大な問題)
- ・仕事への影響
- ・夜勤のため夕方の会議への出席が難しい(土日も仕事あり)
- ・農繁期の会議
- ・平日のイベント等の準備・参加
- ・プライベートの時間の確保に制約あり
- ・「来たり者」は役はつきますが、周り何軒か以外はまるで不知です
- ・役員の中にことと次第の解らない人がいるのが困る
- ・自分が高齢のため夜の車の運転が辛い
- ・活動記録の記入
- ・県外研修、県内遠隔市町村での研修
- ・自分の健康状態に不安があるので、あくまでも自分が要因です
- ・祝金等の出費
- ・役を受けたからには責任を持って実施することになっている
- ・要介護者を一人で抱えている場合、役に専念しにくい。
- ・日常と災害時の感染症対策について
- ・今回はこのような状況なのであまりない。

考察

⑭全ての回答が35%以下であり、項目をより細分化しないと見えてこない面もあるが、回答4に関しては次のなり手を探すことも含まれることによって負担感が大きくなっていると予想される。また、反対に回答5が約30%と比較的高く、今後の参考となる。

問15. 新型コロナウイルス感染症に伴い困っていること・心配なことはありますか(複数回答可)



●その他意見

・東京に仕事で行く用事がある、年寄りが居るので感染しないようにしたい/
・風評被害も怖い/
・近くに感染者がでると不安
/
・高齢者と接することが怖いと思ってしまいました/
・すべてにおいて、動きが取れないことや、縮小にはしりがち

考察

⑮回答1,3など個人的な困りごと・心配ごとの回答率が高いのは当然であるが、回答2,7に関してそれぞれ2,3番目の回答率であり、地域関係者を対象とした本アンケートの特色とみられる。新型コロナウイルス感染拡大を受けて地域には多種多様な困りごと・心配ごとが発生しており、社協として既存事業の目的や意味を再確認するとともに、固定観念にとらわれず出来る支援・新たな支援を検討していく。

問15-①コロナの中のごまりごと

●災害

- ・災害時の避難所の在り方について（コロナの対応も含めて）
- ・避難が必要な際、密を避け、避難しづらい場面がありそう
- ・自分の身の回りの人の新型コロナウイルスへの感染、また台風など大雨により災害が発生した場合の対応、避難所の運営にも問題があると思う
- ・いざ災害が起きたときのことを考えると避難所は？うまく仕切れるのか心配です。
- ・災害が発生した場合、コロナへの感染を防げるのか？
- ・災害発生時における具体的な対応策（誰が主導でどのように対応するか）。
- ・災害避難所の3密回避
- ・独居なので、感染しても自宅療養になった場合助けてもらえない
- ・災害発生時の、避難所でのコロナ感染が心配、不安。
- ・災害が起きた時避難所に全員が集まらないので、自主避難すれば必要な物資が届かなくなるのではないかと？

●感染への不安

- ・自分の感染への不安 10
 - ・家族（高齢者や子供）の感染への不安 13
 - ・感染しているかわからない（自分、家族が）3
 - ・いつ、どこで感染するのかかわからない 10
 - ・他人に感染させてしまわないか 9
 - ・感染に伴う世間の目（誹謗中傷） 6
 - ・感染拡大への不安（クラスター） 2
-
- ・感染することへの恐怖、不安。ワクチン、治療薬の完成を待ち望んでいる
 - ・いつでも誰でも自由に検査できる体制がほしい
 - ・身近に感染者が出た時、甲州市でどのような対応をしてもらえるか？又、PCR検査等は素早い対応はされるのか？

- ・感染に対して今の状況でのコロナ対策を行っても、お互いに感染する事が0%にはならないであろう事。感染後の対応が行政を含めて適正に行えるか？
- ・自分が感染すると一人暮らしの親の面倒が見られなくなる
- ・入院になった時家族やペットの世話をどうするか
- ・自分が入院したら、家族の生活が心配。
- ・家族が入院した場合に残された家族の生活。
- ・家族が新型コロナに感染しないか心配
- ・高齢者家族のみの生活なので、一人が入院した場合残った家族の生活面全般。出荷が出来なくなる
- ・子供が他府県で生活しており他府県でのコロナ感染者増加が心配
- ・子供達三人がそれぞれ遠くに住んでいる為何かと心配
- ・子どもや孫が東京にいて感染しないか心配
- ・3世代家族なので、誰が感染してもリスクが大きい事。
- ・3世代同居なのでコロナに感染していることが分からず、交流してしまう
- ・例え治癒したとしても後遺症が残ったり、臓器にダメージを受けることが多い等の報道を見聞すると健康面が心配になる。
- ・コロナ症状が出た時の対処法
- ・義母が高齢の為来訪者に気をつけている。
- ・危篤の親族にあわせてあげられないのが悲しく辛い。
- ・熱を出すことが怖く、家族、職場に迷惑をかけてしまう（8月に熱発し、PCR検査を受けたが、結果が出るまで、気が気ではなかった）。
- ・家庭崩壊や近所の目が利かなくなる
- ・この地域で1号になったらと思う。
- ・身近に感染者がいないので平常心を保ってられる
- ・茶飲み話の中心が他人の事だから

●経済活動

- ・コロナ増大し、食料品等が不足した場合
- ・感染した場合に家庭の経済が停止する事。
- ・仕事関係、生活環境

- ・農産物などの食糧、流通機関のコロナ感染による閉鎖などの混乱が発生すると農業経済は成り立たないことになる大変不安である
- ・コロナに感染した場合、農産物の出荷ができなくなり、生活が苦しくなるのではないか？
- ・観光施設の為、売り上げの減少。
- ・経済的な不安、災害時に避難するべきか、コロナ発症した際の看護全般、身体や金銭に関すること、減収への不安（いつまで続くのか）
- ・コロナウィルス蔓延防止を考えて仕事が少なく経済的に難しいこと。
- ・感染した場合の生活、仕事ができない場合の保障、補助金等
- ・もし、感染症に罹った時、仕事を辞めなければいけない

●予防対策

- ・健康管理について
- ・家族が病気療養中なので自分が感染しないように心掛けている
- ・感染予防対策に苦慮している
- ・近所、職場に迷惑をかけないようにする
- ・コロナウィルスに感染しない、させない
- ・健康維持はうつさず、うつされず
- ・関係機関との連携や指導を受けながらガイドラインを守って徐々に活動していく（ウィズコロナ）

●人との繋がり

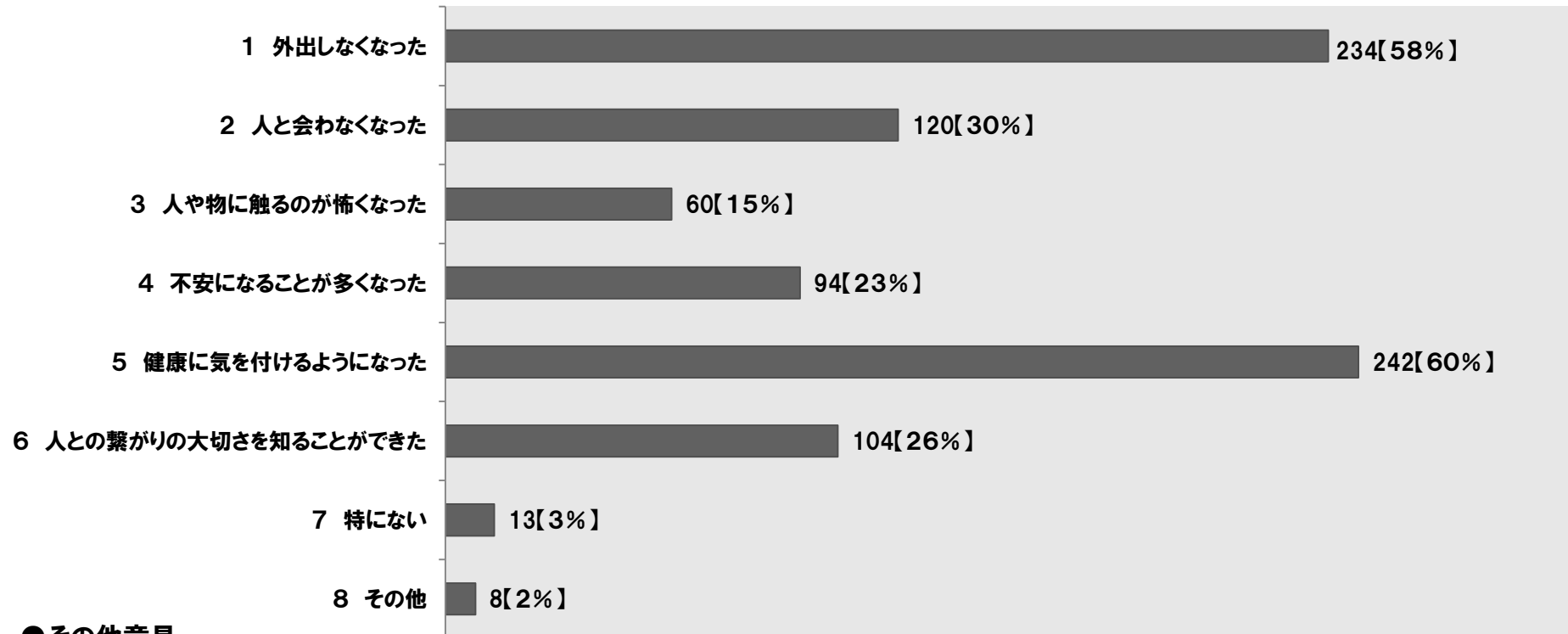
- ・地域の行事（運動会や敬老会）を中止にしなければならないこと
- ・社会全体の経済レベル低下にともない、貧困者の増加、連帯感の喪失による社会崩壊
- ・会合、イベント等ができない。コミュニケーション不足
- ・子どもたちが気軽にあそべる場所がない。歩いていける公園があると運動にもなるが、どこへ行くにも車に乗る必要があり不便。親が連れていく必要がある。
- ・コミュニケーション不足
- ・施設に入居している親との面会が出来ない。月に1回10分程度のオンライン面会できるが、プライベートな話ができない。
- ・命の危機の心配もあるが、SNSなどで(コロナに感染した場合)拡散されたり、特定されることで地域と繋がれなくなるのではという不安。
- ・地域の結びつきが疎遠になり、各種活動ができなくなる

- ・ イベント、会議等集まる機会が減り地域のつながりがなく孤立化する考え方の人が増加すること。
- ・ 各種会議など催し事の人集めや、災害発生時の対応。
- ・ 地域のイベントが中止になりつながりが薄れてしまうこと。
- ・ 感染をさせない為、人との関わりが極端に減っている。情報不足やもしもの際の助け合いが心配。
- ・ ゆっくり話が出来ない。

●その他

- ・ 都内にいる子供に会えない
- ・ 一人暮らし高齢者である私は助けを求められるだろうかと不安
- ・ 普段の生活が維持できる心配。
- ・ 高齢障害児の将来（53歳）
- ・ 負のスパイラルへ向かっていくのが不安です
- ・ ひとり暮らしで統合失調症と思われる人がいるが、手を打てない。
- ・ 生活、教育（学力低下）
- ・ 民生委員活動が十分に出来ていない事。
- ・ 東京に暮らす家族が感染した場合の支援方法。
- ・ 暑いのにマスクをしなければならない。
- ・ 人に会えない、会話が出来ない、予定を立ててもグループではなにもできない、旅行しても制限され心にゆとりがもてない
- ・ いつワクチンができるか

問16. 新型コロナウイルス感染症の流行を受けてあなたの意識に変化はありましたか (複数回答可)



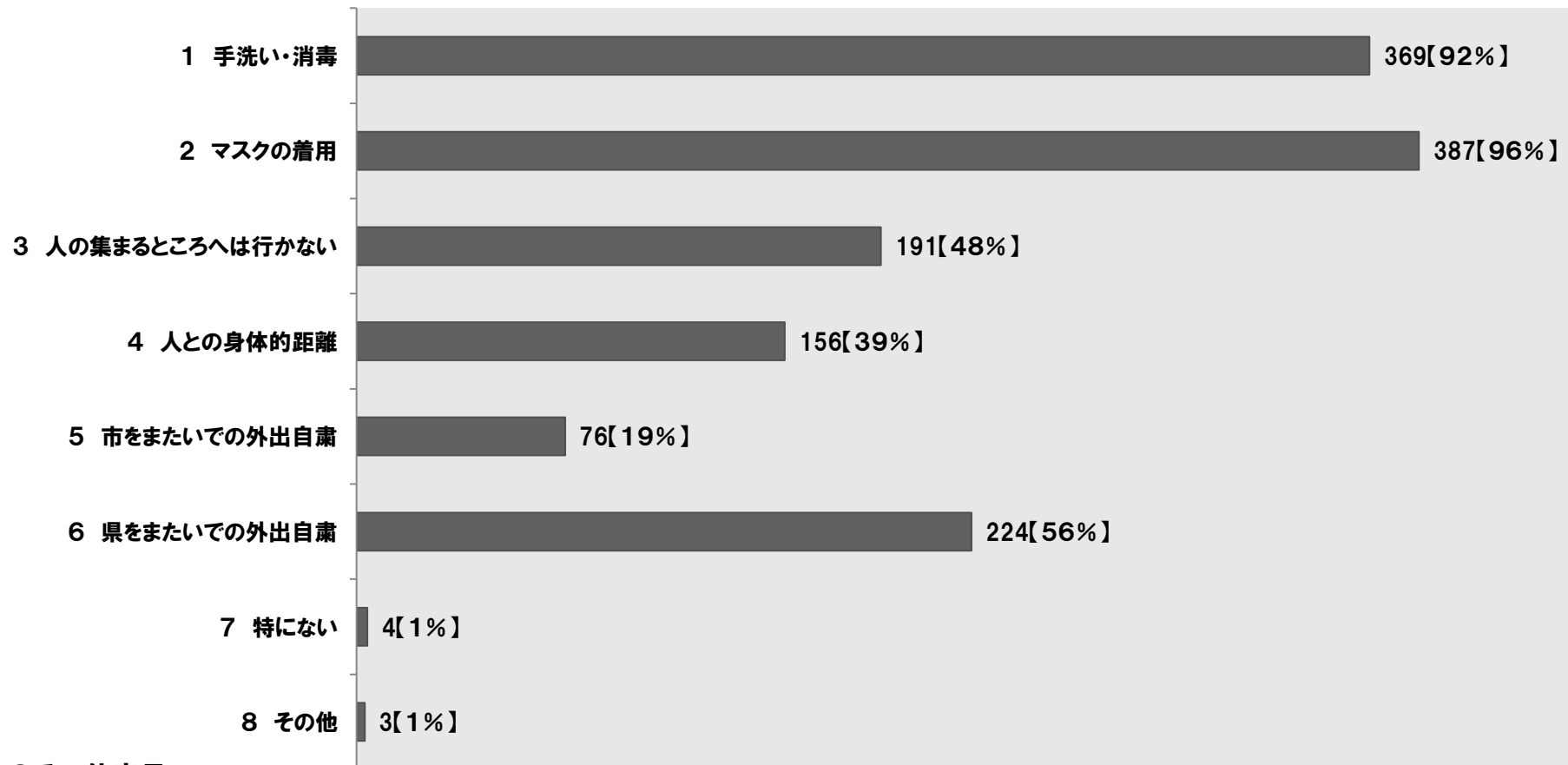
●その他意見

・県外に出ない・会合をすべきかどうかの判断に迷う/
・買い物に行ってもなるべくものにさわらない・日常を大切に生きようと思った
/
・3密にならないよう注意深くなった・周囲に気を遣うようになった/
・行きたいところへ自由にいくことのできるありがたさ
/
・不要、不急の外出はしなくなる・すべてにおいて

考察

回答7が3%しかないことから、住民には何らかの意識の変化があったことが伺える。その中でも回答1は60%近い回答率と高く、外出を控えることによる「繋がり希薄化」が懸念され、また、その他の回答からも何らかの「不安感」を抱えている住民も一定数いることがわかる。回答5の結果からは健康への機運が高まっていることが読み取れるため、介護予防事業等の取り組みへと繋げていくことも検討していく。回答6が約25%の回答率であることは、本アンケートの特色と言える。

問17. 新しい生活様式の中であなたが心がけていることはありますか(複数回答可)



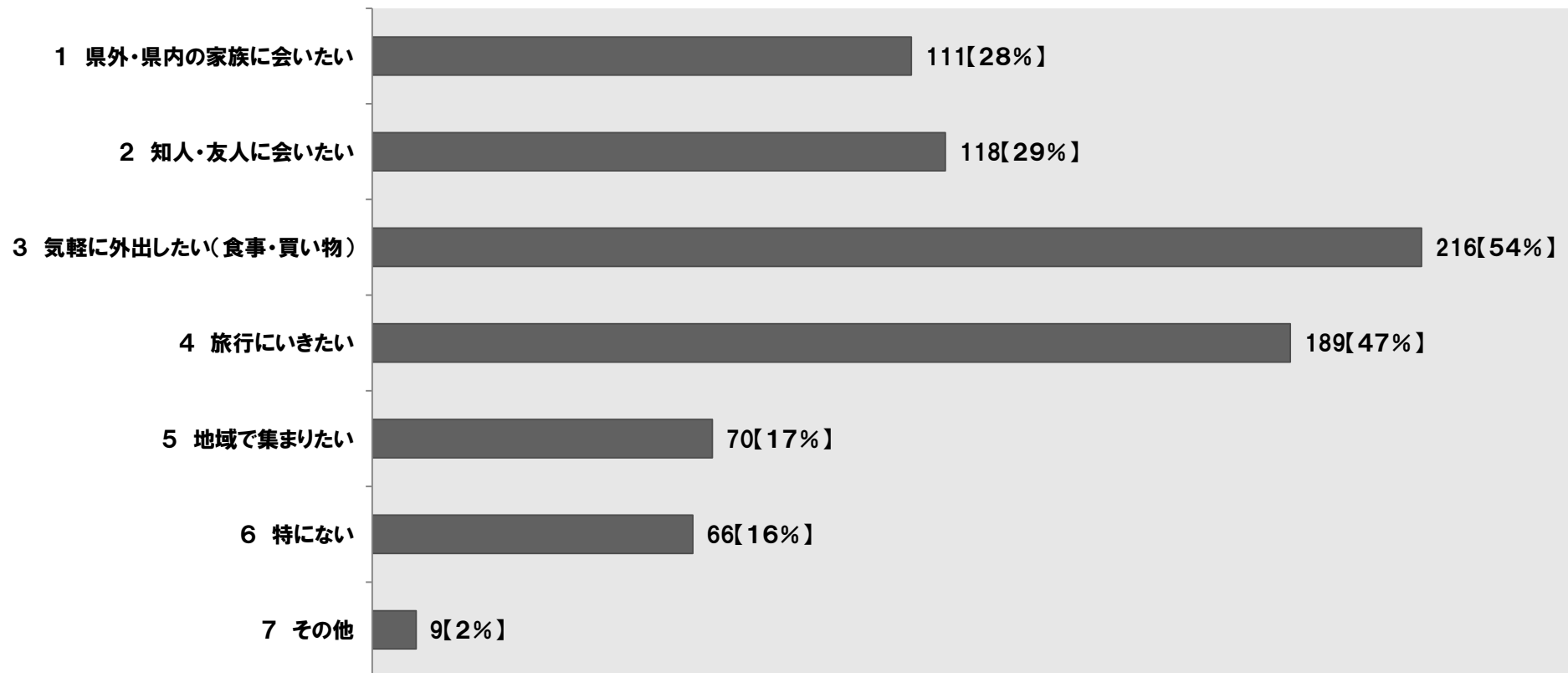
●その他意見

・帰宅後の着替え/・高齢者、赤ちゃんのことに気をつける/・近距離での会話を避ける

考察

⑰回答3に関して50%近い回答率であり、これは設問16回答1,2とも関連付けられ、設問5で日ごろの情報源を人づてによる方も多いため「情報の不足」が懸念される。また、回答6の回答率が高いが、「県外に出ない」ということは「県外からも来ないでほしい」ともとることができるため、身近な「家族」という存在と疎遠となることでより孤立・孤独化に繋がる恐れもある。

問18. 今、コロナ禍の中であなたがしたいことはありますか(複数回答可)



●その他意見

・他人に迷惑をかけずに最低限の生活行動/・じっとしているのが良い、色々やりたがらない/・各種行事を例年通り実施したい・不要、不急の用事はしないこと/・地域から感染者は出したくない・趣味の家活動の再開を望んでいる/・いきいきサロンの再開・やりたいことはあるがしづらい

考察

⑱住民のほとんどは現在何らかの制約を設け不自由を感じながら生活していることが読みとれる。また、回答3,4が高いことは国の施策とも一致する。回答5に関して地域関係者(支援者)から70名の回答があったが、参加者や支援を受けている者からの回答ではもっと高い可能性もある。

社会福祉協議会に期待すること

●広報周知

○社協認知度

- ・一般的に社協の存在自体、またその活動内容についてあまり知られていないような気がする。まず知っていただくことが活動の推進、発展へとつながっていくのではないのでしょうか
- ・社会福祉協議会の事業等をもう少し情報を流す広報活動に力を入れる、一般の人々はまだ理解不足のところがあるように思う
- ・コロナ禍の今こそ、情報発信を数多く発信し、人々の心理面からの啓発活動をお願いします。
- ・社会福祉協議会の活動を多くの人に知ってもらうこと。
- ・社協の活動を多くの方々に知っていただくことも重要ではないかと思われまます。
- ・社協の活動をもっと地域の人に知ってもらいたい。
- ・今年の7月に会議があり、初めてのことで今はよくわからない。
- ・協議会の組織、地域組織との関わり方、複雑で長年かかわりのある人だけが理解可能か？
- ・昔からなのでしょうが、「役」として「来たり者」が受けても、経過（昔からの）分からず、今、どこに誰が住んでいるか、つながっているか分からず、組の役以外は出来ません。社協としての組織体制は根本から考え直すべきだと思います

○市との連携

- ・市民の方に市役所の福祉関係、各部署との役割分担を明確に知らせよう願いたい。
- ・市役所と社協と同じような支援があり戸惑う
- ・市役所と社協が同じ（似たような）事業はどちらかにしてほしい

○情報提供

- ・地域活動に役に立つ企画・情報等を教えてください
- ・趣味の集まりの場所・時間・年月日が詳しくわからないので情報がよくわかるように発信をよろしくお願いします
- ・老人クラブの無い地域ではいろいろな行事があることもわからないし、参加できない。改善していただけたらと思います

○研修・教育

- ・社協支部役員について、2年の任期で無理なことではあるが、もっと社協事業への出席、教育をしてもらいたい
- ・社協の役員になることが突然のことであり、仕方なく受けたようなもの。何をしたらいいかもわからない状態である。今後引き受け手がなくなっていく（関心がない人が増えていくと思う）。もっと若い世代が関心をもてる情報が必要だと思う
- ・社協支部、推進員の教育（役割と活動、理解度を高める）研修会を年に1、2度実施し、推進員であることを自覚させていただきたい（地域で順番に回ってきて仕方なく行っている人が多くいると思われる）

●環境づくり

○地域全体

- ・高齢化社会になってくるのでお互いに助け合える環境づくり
- ・親しみやすい町づくりを目指して取り組んでいただきたいです。よろしくお願いします
- ・高齢者が安全にすめる地域であってほしい。
- ・老人介護施設、人材の充実、みんなが笑顔で暮らせる地域社会を築くための一助となる事を期待しております
- ・社協各支部が生活支援体制整備事業の第2層協議体ようになってほしい

○地域のつながり

- ・各地区ごと、子供高齢者など世代を超えて集まれるような機会があれば、地域のつながりがもて、助け合うこともスムーズになると思う。
- ・コロナ禍で自治会単位の活動中止ですので、それに代わるものが考えられると良いかと思えます。
- ・社協が地域行事や集まりに積極的に関与することができればいい。
- ・独居高齢者が増えていくと思われまます。地域行事に気軽に参加しながら人との繋がりが持てる場があればうれしいと思えます

○居場所づくり

- ・高齢者が働く事が出来なくなったときは趣味の活動（読書、絵画、ゲームなど）をして過ごしたい
- ・バス・タクシーも自家用車の様に使えず地域で楽しめる場所があればよいと思う
- ・出前的な場所づくりを期待している

●支援

○地域福祉

- ・これぞ社協、社協としての独自性を発揮できる事業（行政ではできない事業、福祉の狭間にいる人への手厚い援助）
- ・現在、限界集落に住んでいる。若い人には頼れる状況になく地域のことは地域の中で何とかしなければいけない状況です。助け合って頑張って生きていくための手助けがほしい
- ・法や制度に縛られない柔軟な社会的弱者への支援を望む。
- ・地域事業の支援
- ・自主活動団体への積極的な応援
- ・地域の実状を知ってもらい、不足分に対するアドバイスがあれば良いと思う
- ・もう少し住民を巻き込んだ活動を推進してもらいたい
- ・伝達や事務的な仕事ではなく主から出向いて行動をおこす努力をしてほしい
- ・イベント・会議などを相手の立場になって企画・実行してほしい
- ・地域の現状を確認し、ニーズにあった支援等をしていていただきたい

○高齢者福祉

- ・高齢者の孤独感、不安感の高まりを感じる。やはり定期的な見守り、声掛けは必要だと思う。ふれあいペンダントの普及もだが、新しい方式を考える時期にきていると思う
- ・ひとり暮らしの高齢者等の手助けは当然必要ですが、お互いに思いやりの少ない家族の中で生活されている高齢者も把握しておき、対応に備えておくべきかな？個人情報が……何て言っていたら、活動が制限され過ぎると思います。
- ・隣近所に繋がりが希薄になっている現在、子供の数の減少、独居老人、高齢者夫婦など見守りが必要な方が増えているので、より地域に密着した福祉活動の推進を期待したい
- ・高齢者の多くは運転免許所がなく自分で移動することが難しいので、イベントに参加できない

●災害

- ・災害時にいち早く行動してもらいたい
- ・毎年のように発生する気象災害、被災地の復興にはボランティアの若い皆さんのマンパワーの協力なくしては考えられません。その中心となる民間機関は社会福祉協議会だと思います。中山間地域の当地区では高齢化が進み各組織の役員の引き継ぎなどが困難になってきました。

災害発生時の救済は社会福祉協議会に期待する所が大きいと思います

- ・高齢者への自主防災の視点での支援
- ・災害時における地域と社協との連携強化
- ・どの家に何人住んでいるかも知らない人が多いと思う。このままでは災害時になどに困る。
- ・あまり重荷にならないよう、気軽に活動できることが大切。特に災害時など、まずは自分を守ることが大事。役だからといって、負担になることはあってはならないと思います。

●その他

- ・コロナウィルス感染症に対して、高齢者へのマスク・アルコール等の配布があればお願いしたい
- ・コロナが収束し今までと同じように活動できるよう望んでいます。
- ・コロナ感染症の収束が見えない現在、人との繋がりが大切なのは分かっているが、どう行動すれば良いか。
- ・コロナで色々中止になっているが、新しい生活様式は難しい。
- ・コロナで地域福祉の有り方は変わらなくてはと思う。集まる場所より、心にふれるやさしい言葉かけとか？私自身悩みます
- ・今までとは違った活動が必要と思われます。感染症に十分に注意し活動をし、ご指導してください。
- ・まず、自分や家族が健康で居る事が優先されているか。身近な人には声かけしているが、積極的に声かけ出来ないのが現状です。
- ・高木先生のお話を聞いて、かしくまった事ではなく、生活していく上で、こうしたらと思うことを、地域の良くなる事だったら、小さな事から始めていこうと思いました。生きていくかぎり勉強だと思えます
- ・社協とかかわり、地域における社協の役割の重大さを再認識しました
- ・大和地域は今まで停滞ぎみだった支部活動を社協がリーダーシップをとっていただき、本来の状況になってもらいたい
- ・こうしたアンケートの分析と活用に期待しています
- ・地域福祉の大事な事業実施ありがたいと思います
- ・与えられた環境の中で精いっぱい努力すること、どうしたらよいか、何を一番最初にするか、優先順位、段取り、人が望むことに自分は何をしたらよいか考える。
- ・地域の半数以上が高齢者であり様々な活動にも年々制限が出ているため区としても苦慮していると思う
- ・机上プランは知らない
- ・社協があまり活躍することが良か否か。良く考えて行動してほしい

【 総 括 】

本アンケート結果から、地域には自主的な集いの場や、様々な助け合いの事例があり、地域住民のつながりの希薄化が言われている中であって、住民同士お互いに繋がりながら生活をしていることがわかった。

一方、地域には複合的な課題を抱えた住民が数多くいることや、様々な役を担うことによる住民の負担感、また、コロナ禍においても住民たちは何かしらの繋がりを求め模索している姿などが改めて浮き彫りとなった。

これらを踏まえ、社会福祉協議会として、SNS等ITメディアの活用による情報発信と情報受信するための高齢者等への支援、災害時も含めた地域全体での見守り体制の構築など、住民からの期待や必要性の高い取り組みへの支援が求められていることが明確となった。また併せて、支部社協活動を通して地域の中に福祉に対する理解者を増やしていき、各種機関とも連携した相談体制を構築することにより、身近な相談先としての機能を強化していくことも重要になっている。

現在、社会福祉協議会が推進しようとしている「地域の支え合い活動」もコロナ禍のため停滞を余儀なくされているが、本アンケート結果から見えてきた地域の実情を今一度再確認し、新たな生活様式に対応した「新たな地域の支え合い活動」に向け、地域の未来像を住民とともに考え、取り組んでいきたい。

結びに、本アンケートにご協力いただいた関係者の皆様に対し厚くお礼を申し上げますとともに、今後も社会福祉協議会へのご理解・ご支援を承りますよう、重ねてお願い申し上げます。

◆アンケートに関するお問い合わせ◆

社会福祉法人 **甲州市社会福祉協議会**

〒409-1304 山梨県甲州市勝沼町休息 1867-2

電話：0553-44-2612 / FAX 0553-44-3035